

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月30日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21320114

研究課題名（和文） ガーンディーにおける生命・生存・スワラージー非暴力思想の世界史的
水脈研究課題名（英文） Life, Sustainability and Swaraj in the Thought of Mahatma Gandhi:
Non-Violence in the Context of Global History

研究代表者

長崎 暢子（NAGASAKI NOBUKO）

龍谷大学・人間・科学・宗教総合研究センター・研究フェロー

研究者番号：70012979

研究成果の概要（和文）：本研究は、近年再評価されつつあるガーンディーに関する文献購読、史資料調査、および現地調査（インドのアメダバード、ワルダール、イギリスの大英博物館、南アフリカのダーバンなど）を行い、ガーンディーの歴史的役割の重要な一端（非暴力的な紛争解決）の詳細とその影響を明らかにすることが出来た。具体的には、彼は、当時の南アフリカに存在した紛争（人種差別）を非暴力的に解決する「方法としての非暴力」をこの時代に編み出し、それによって有色人種（インド人&中国人）に対する白人の人種差別の一角を崩すことに成功したのである。のみならず、この方法は、北欧、中東（イラン）の紛争解決、米国の人種差別反対運動にも影響を与えた。

研究成果の概要（英文）：We conducted research on M. K. Gandhi through group meetings for reading the text, as well as by archival and field research, including Ahmedabad and Wardha in India, the British Library in the U.K. and Durban in South Africa, and were able to show aspects of the role he played in history.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2010年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2011年度	3,000,000	900,000	3,900,000
総計	11,600,000	3,480,000	15,080,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：非暴力、社会運動、独立、ガーンディー、暴力、スワラージ、英印関係、インド

1. 研究開始当初の背景

（1）本研究の背景には、1989年に冷戦が崩壊したにもかかわらず、インド以西～中東にかけては、イラク戦争は継続しており、平和な社会の到来は、いまだ遠い状態である。しかし、インドは、こうした戦火に巻き込まれることなく、紛争を相対的には平穏に解決してきたように見えるのは、何故だろうか。我々は、その謎をインド近代史のなかに探ろうとするものである。

（2）インド近代史にあっては、イギリス帝国に対する植民地インドの独立運動が、ほぼ中心をなしている。そのインド近代史においても、インド大反乱（1857年）にみられるように、大規模な武力蜂起が行われた時代もある。しかし、1920年代から、M.K.ガーンディーを指導者とする民衆運動が、運動の主流となっていったとき、それは、非暴力的な不服従運動へと戦術を転換し、ほぼ非暴力のうちにインド独立を勝ち取ったのであ

り、その後の英印関係など、国際関係の円滑な運営にもつながったのである。

(3) インド近代史のなかにおいて培われ、伝統となっている非暴力による紛争解決の方法は、インド以西～中東では、採用されていないように見える。それは、インド研究者にとっては、非常に不思議な現象であった。

2. 研究の目的

上記の説明であきらかにしたように、本研究の目的は、以下の2つである。

(1) ガーンディーの運動における「非暴力」運動の具体的な構造をインド史研究の文脈から明らかにすること。何故、非暴力という方法が思いつかれ、かつ、採用され、成功したのかを明らかにすること。

(2) こうしたガーンディーらの非暴力思想とその運動の方法は、アメリカ、中東、北欧など、世界各地の運動にあつては、どのような影響をもったのかを明らかにすること。

3. 研究の方法

(1) まず、研究者をその専門に応じて、以下の2つの群にわけて研究をおこなった。

インド地域研究者

長崎暢子、篠田隆、田辺明生、石井一也、インド地域研究者は、ガーンディーの方法を採用した運動が展開されたインド諸地域、すなわち、ガーンディーの故郷であるグジャラート地方をはじめとするインド西部を篠田が担当した。ついで、オリッサ、ビハール、ベンガル、UPなどを中心とするインド北東部を田辺、長崎が担当し、それぞれの地域におけるガーンディーの運動の展開を研究した。

インド以外の地域におけるガーンディーの運動については、それぞれ、以下の研究者が担当した。即ち、アメリカ(油井大 三郎)、中東(酒井啓子)、北欧(清水耕介)の3人である。

(2) 研究者は、それぞれ、上記分担地域の資料収集、現地調査にもとづき、実証的研究を行い、成果を研究会、学会などをつうじて、公表し、反応や論争を行ってきた。公表したのものについては、「5. 主な発表論文」の項に記した。(含単著)

4. 研究成果

(1) 第一に、ガーンディーの「非暴力」による紛争解決の方法」を、その思想と理論の次元において、詳細に分析したことである。

(2) 第二に、この方法が、これまで、アジアにおいて、活用され、展開された事例を研究したことである。それが、「アジアにおける暴力・非暴力の展開」として、第2部をなす。それらの成果は、下記のように、諸論文となっている。また、(b)に記す書籍には、ガーンディーの非暴力運動を中心に、世界において、使われた非暴力運動の事例研究が収められており、アジアをはじめとして、世界への影響の広さがうかがわれる。参考：長崎・清水共編著『紛争解決・暴力と非暴力』ミネルヴァ書房 2010

(3) 発信に関しては、本研究の進捗だけが原因ではないかもしれないが、酒井啓子、油井大 三郎、清水耕介、長崎暢子など、本研究のメンバーたちは、さまざまな学会、研究会から、招待され、ガーンディーについて、あるいは非暴力について話してほしいといわれることが多かった。結果として、非暴力的紛争解決の方法の研究の重要性を実感している。

(4) ガーンディーが作り、その後、ガーンディーの弟子たちによって運営されているワルダの「修道場(アーシュラム)」に滞在・調査することができ、ガーンディー思想・運動は、現在でも、活着していることが理解された。

(5) インド、イギリス、南アフリカなど現地調査を実行することができ、かつ史資料の収集も大いに進展した。

(6) 本格的なガーンディー研究は、現在、諸学問、とりわけ、人文・社会分野において、成果を待たれている、という実感を持たた。また、イスラーム圏にあつても、イランなどには、少なくとも、その影響がみられることが判明した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計29件)

1. 長崎暢子、「歴史研究における『国際文化学』」、『国際文化研究論集』第9巻、査読無、2012年3月、11-15頁。
2. 長崎暢子、「国際文化学から見た国民形

- 成 ガンディーを事例として」、『国際文化研究』第 16 号、査読無、2012 年 3 月、69-74 頁。
3. 篠田隆、「インド・グジャラート農村における家畜産出物の生産と飼料基盤：調査村の事例を中心として」、『大東文化大学紀要（社会科学）』第 50 号、査読無、2012 年 3 月、71-100 頁。
 4. 酒井啓子、「アラブの春をどうとらえるか」、『中東研究』、査読有、513 号、2012 年 2 月。
 5. 酒井啓子、「The COMPASS 世界に広がる街頭デモ ウォール街とアラブを結ぶもの」・「The Compass リビアはイラクの失敗を超えられるか」・「The Compass 『10 年後』の新潮流は多文化社会の危機へ」・「The Compass 短絡的な紛争処理が、アラブ改革を遠ざける」・「The Compass 民主化支援のカギは中東新世代への対応力」・「The Compass 未成熟な民衆蜂起をどう支援すべきか?」全 6 編、『週刊東洋経済』、査読有、6366(108-109)・6358(134-135)・6348 (106-107)・6337(120-121)・6329(106-107)・6320(96-97)、2011 年 4-12 月。
 6. 長崎暢子、「アジアから問う真理 ガンディーの運動の提起したもの」、『社会・経済システム』第 32 号、査読有、2011 年 10 月、1-12 頁。
 7. 酒井啓子、「欧米の嫌イスラム 対テロ戦争が残した禍根を欧米社会は克服できるか（イスラムから見る世界）」、『エコノミスト』、査読有、89(46)、2011 年 10 月、77-78 頁。
 8. 酒井啓子、「『アラブの春』から見えてくるもの--中東の政治情勢を考える（特集《再考》政治・経済）」、『経済セミナー』査読有、661、2011 年 8 月、49-54 頁。
 9. 清水耕介、「現代におけるグローバルな善・悪の概念について：カント・アレント・デリダの正義」、『平和研究』、査読無、36、2011 年 5 月、43-60 頁。
 10. 篠田隆、「ウシをまもる：家畜保護の思想と民間保護施設」、『季刊民族学』35 巻 2 号、査読無、2011 年 4 月、27-35 頁。
 11. 酒井啓子、「最近の中東情勢」、『日本貿易月報』査読有、691、2011 年 4 月、6-9 頁。
 12. 酒井啓子、「エジプトの歓喜とリビアの悲劇--アラブの『民衆革命』はいつまで『新しく』あり得るか（総特集 アラブ革命--チュニジア・エジプトから世界へ）」、『現代思想』、査読有、39(4)、2011 年 4 月、40-45 頁。
 13. 酒井啓子、「エジプトの歓喜とリビアの悲劇--アラブの『民衆革命』はいつまで『新しく』あり得るか（総特集 アラブ革命--チュニジア・エジプトから世界へ）」、『現代思想』、査読有、39(4)、2011 年 4 月、40-45 頁。
 14. 篠田隆、「インド・グジャラート州における牛移牧集団の社会経済分析：ラージャスターン州からの雌牛移牧集団を事例として」、『大東文化大学紀要（社会科学）』第 49 号、査読無、2011 年 3 月、133-168 頁。
 15. 田辺明生、『『カーストと平等性』の背景とこれからの展望』、『アジ研 ワールドトレンド』査読無、192 巻、2011、38-45 .
 16. 田辺明生、「現代インド地域研究 私たちは何をめざすか」、『現代インド研究』、査読有、第 1 号、2011、1-18 頁。
 17. 油井大三郎、Interpretations of the 1960s in Japan and the US、東京女子大学紀要「論集」、査読無、62 巻 1 号、2011、189-202 頁。
 18. Kosuke Shimizu, "Nishida Kitaro and Japan's Interwar Foreign Policy: War Involvement and Culturalist Political Discourse", *International Relations of Asia-Pacific*, Vol.11-1, 査読有, January 2011, 157-183.
 19. 長崎暢子、「非暴力運動の有効性 M . K . ガンディーの運動が語るもの」、龍谷大学創立 370 周年記念事業『人間・科学・宗教シンポジウム』特別講演録、査読無、2010 年 9 月、54-67 頁。
 20. Kosuke Shimizu, "Preface in Nagasaki Nobuko et.al, eds, Conflict Resolution in the Afrasian Context: Examining More Inclusive Approaches", *Afrasian Centre*, 査読無, May 2010, iii.
 21. Kosuke Shimizu, "Structural Violence and Human Security", *Afrasian Working Paper*, No. 67, 査読無, May 2010, 1-25.
 22. 篠田隆、「インド・グジャラート農村における雌牛・雌水牛の所有と流通：調査村の事例を中心として」、『大東文化大学紀要（社会科学）』第 48 号、査読無、2010 年 3 月、93-120 頁。
 23. 石井一也、「ガンディー研究の批判的考察 ガンディーによる近代批判の理解をめぐって」、『香川法学』、査読無、第 29 巻・第 3・4 号、2010 年 3 月、43-69 頁。
 24. Kosuke Shimizu, "Why were Japanese Postmodernists involved in the Wartime Regime?: Learning From Kyoto School's Theory of World History", *Afrasian Centre*, 査読無, Mar 2010, 19-28.

25. 長崎暢子、「非暴力とM. K. ガンディー」、『季刊 民族学 131』、財団法人千里文化財団、査読有、2010年1月、12-20頁。
 26. Kazuya Ishii, "Gandhism in the Age of Globalization: Beyond Amartya K. Sen's Criticism", *Gandhi Marg*, 査読有, vol.32, no.1, 2010, 101-118.
 27. 長崎暢子、「『ユーラシア地域大国の比較研究』に期待すること」、『比較地域大国論集 1』、北海道大学スラブ研究センター、査読有、2009年5月、11-18頁。
 28. 清水耕介、「非暴力抵抗の3つの歴史と3つの概念」、『国際社会文化研究所紀要』、査読無、2009年5月、107-118頁。
 29. 田辺明生、「植民地期インド・オリッサにおける社会変容 歴史人類学的検討」、『人文学報』、査読有、第98号、2009、1-79頁。
- [学会発表](計23件)
1. 長崎暢子、「第二次大戦後における日本の国際社会復帰とインド」、日印関係史セミナー、2012年2月4日、京都大学本部キャンパス総合研究2号館。
 2. 長崎暢子、(コメンテーター: 講演者ラミン・ジャハーンベグラー)「非暴力運動の射程 ガンディーからアラブの春」東京外国語大学第7回 FINDAS 研究会、2012年1月17日、東京外国語大学。
 3. 長崎暢子、(コメンテーター)「第4回次世代国際学術フォーラム (The 4th International Academic Forum for the Next Generation): 近代世界の「言説」と「意象」 越境的文化交渉学の視点から」、2011年12月10-11日、関西大学文化交渉学教育研究拠点。
 4. 長崎暢子、(研究報告)「ガンディーとアンバードカル その対立と共通点」、龍谷大学現代インド研究センター2011年度第8回ユニット1研究会(2011年度第3回近現代思想研究会) 2011年12月8日、龍谷大学大宮学舎。
 5. Akio Tanabe, "Indian Politics at the Crossroads: Representation, Participation and Vernacular Democracy", XIth Conference of Indian Congress of Asian & Pacific Studies (ICAPS) in collaboration with Association of Asia Scholars (AAS), 5th September 2011, Institute of Development Studies, Jaipur (IDSJ).
 6. 長崎暢子、(講演)「国際文化学研究の方法と歴史学について」、龍谷大学国際文化学研究科2011年度シンポジウム「私たちの国際文化学 -What is Intercultural Communication?」、2011年7月29日、龍谷大学。
 7. 長崎暢子、「多様ななかの統一から多様性の実現へ 『現代インド』の形成」、大同生命地域研究賞受賞記念講演、2011年7月22日、クラブ関西。
 8. 篠田隆、「ガンディーと雌牛保護」、基盤研究B:「ガンディーにおける生命・生存・スワラージ 非暴力思想の世界史的水脈」研究会、2011年7月9日、龍谷大学大宮学舎清風館(京都府)。
 9. Akio Tanabe and Yumiko Tokita, "Connection, Friction and Vibrancy: Vernacular Democracy, Circumfluent Economy and Globalization in Contemporary Rural Odisha, India", International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES), the Australian Anthropological Society (AAS) and the Association of Social Anthropologists of Aotearoa / New Zealand (ASAANZ) Conference, 8th July 2011, University of Western Australia, Perth.
 10. 長崎暢子、講演「激動するインド」、龍谷市民講座「現代インドのダイナミズム 現代インドに生きる思想と伝統」第1回、2011年6月11日、龍谷大学京都深草校21号館。
 11. 石井一也、「ガンディー思想と経済学」、日本平和学会 2011年度春期研究大会、2011年6月4日、新潟国際情報大学(新潟県)。
 12. Nobuko Nagasaki, (Chair) "Session 3 Connecting Diversities: Socio-Political Foundations of Globalization", International Conference on Understanding Global India: The South Asian Path of Development and Its Possibilities, 29-30th January 2011, Kyoto International Community House.
 13. Nobuko Nagasaki, Introduction to the Conference on "Voices for Equity: Minority and Majority in South Asia", Center for the Study of Contemporary India and the Research Center for Buddhist Cultures in Asia, 22-23rd January 2011, Ryukoku University.
 14. 油井大三郎、「1960年代解釈の日米比較 証言と歴史研究の間」、国際シンポジウム「1960年代の脱神話化」、2010年12月11日、上智大学。
 15. Nobuko Nagasaki, "The Politics of Non-Violent Action: Gandhi in South Africa in Comparative Perspective", Conference of Economic History

- Society of Southern Africa, 25th November 2010, Stellenbosch, South Africa.
16. Akio Tanabe, "Vernacular Democracy and Circumfluent Economy in Contemporary India", American Anthropological Association 109th Annual Meeting, 17th November, 2010, New Orleans, Louisiana, U.S..
 17. 長崎暢子、(記念講演)「アジアから問う真理 ガンディーの非暴力運動が提起したもの」社会経済システム学会第29回大会、2010年10月30日、同志社大学。
 18. Nobuko Nagasaki, (Program Address) "Conflict Resolution in the Afrasian Context: Examining more Inclusive Approaches", The Fifth Afrasian International Symposium, 6th February 2010, REC Hall, Seta Campus, Ryukoku University.
 19. Nobuko Nagasaki, (Opening Address) "Sixty Years of Indian Independence: A View from Japan", at "60 Years of Indian Independence: Promoting Regional and Human Security", International Conference sponsored by Kyoto University, National Museum of Ethnology, University of Calcutta and also is held as a part of NIHU Program "Contemporary India Area Studies", 3-4th February 2010, Inamori Foundation Memorial Hall, Kyoto University.
 20. 長崎暢子、(学術講演)「ガンディー運動の有効性 人は暴力をどこまで減らすことができるか The Relevance of Gandhi's Movement to the World Surrounding Us: How Can We Make Violence Ineffective?」、『ヒンド・スワラージ』100周年記念シンポジウム 歴史的地下水としてのM.K. ガンディーの平和思想と行動」国際基督教大学アジア文化研究所主催、2009年12月19日、国際基督教大学アジア文化研究所。
 21. 長崎暢子、(特別講演)「非暴力の有効性 ガンディーの運動が語るもの」、龍谷大学創立370周年記念事業人間科学宗教総合研究センター、2009年12月8日、京都ホテルオークラ。
 22. 長崎暢子、(特別講義)「現代インド史研究をめぐる諸問題」、龍谷学会・龍谷大学文学部史学科仏教史学専攻共催、2009年11月25日、龍谷大学大宮学舎。
 23. 長崎暢子、(学会発表)「アジア主義とインド ガンディーの場合」、北海道大学人文社会科学研究所研究科科研費(A)第一

回国際シンポジウム「アジア主義の比較」、2009年6月7日、北海道大学。

〔図書〕(計18件)

1. 田辺明生・速水洋子・西真如・木村周平編、『人間圏の再構築』、京都大学学術出版会、2012年、385頁。
2. 田辺明生・田中雅一・奥山直司編『コンタクトゾーンの人文学第4巻 ポストコロニアル』、晃洋書房、2012年、285。
3. 田辺明生、横山俊夫編『ことばの力 あらたな文明を求めて』、京都大学学術出版会、2012、418頁。
4. 油井大三郎編、『越境する1960年代 米国、日本、ヨーロッパ』、彩流社、2012、330頁。
5. Akio Tanabe, Kazuya Nakamizo, Shinya Ishizaka and Chie Fukuuchi (eds.), *Development, Environment and Socio-political Transformation in South Asia: Diversity and Sustainable Humanosphere in Contemporary Dynamism, Proceedings of the International Workshop*, Kyoto University Press, 2011, 101.
6. Akio Tanabe, Georg Berkemer and Hermann Kulke eds., *Centres Out There? Facets of Subregional Identities in Orissa*, Manohar, India, 2011, 434.
7. 酒井啓子、『「アラブ大変動」を読む：民衆革命のゆくえ』、東京外国語大学出版会、2011、224頁。
8. 清水耕介、『E.H.カー『危機の20年：191-1939』』、土佐弘之編著、『グローバル政治理論』、人文書院、2011、226頁。
9. 清水耕介、ナカニシヤ出版、『人間の安全保障論』：構造的暴力との関連において、小田川大典他編、『国際政治哲学』、2011、344頁。
10. 清水耕介、『欧米の政治経済の現状と今後』、伊藤誠・本山美彦編『世界と日本の政治経済の混迷：変革への提言』、お茶の水書房、2011、283頁。
11. 長崎暢子、『アフラシア叢書1 暴力と非暴力 紛争解決』、共編著(長崎暢子・清水耕介)、ミネルヴァ書房、2010年、402頁。
12. 長崎暢子、『初期国民会議派とインド・ナショナリズム：協力のなかの自立と変革』、岩波講座『東アジア近現代通史2：日露戦争と韓国併合』、岩波書店、2010年、380頁。
13. 田中雅一・田辺明生編、『南アジア社会を学ぶ人のために』、世界思想社、2010、309頁。
14. 杉原薫・川井秀一・河野泰之・田辺明生編、『地球圏・生命圏・人間圏 持続型

- 生存基盤とは何か』、京都大学学術出版
会、2010、427 頁。
15. 田辺明生、『カーストと平等性 インド
社会の歴史人類学』、東京大学出版会、
2010、576 頁。
 16. 石井一也、アジット・K. ダースグプタ
著『ガンディーの経済学 倫理の復権を
目指して』を監訳、作品社、2010 年、358
頁。
 17. 清水耕介、『アフラシア叢書 1 暴力と
非暴力 紛争解決』、共編著(長崎暢子・
清水耕介編)ミネルヴァ書房、2010 年、
402 頁。
 18. 長崎暢子、『自立へ向かうアジア』文庫
版、共著(長崎暢子・狭間直樹)中央
公論新社『世界の歴史』27 巻、2009 年、
221-423、539-548 頁(補筆)。

6 . 研究組織

(1)研究代表者

長崎 暢子 (NAGASAKI NOBUKO)
龍谷大学・人間・科学・宗教総合研究セン
ター・研究フェロー
研究者番号：70012979

(2)研究分担者

篠田 隆 (SHINODA TAKASHI)
大東文化大学・国際関係学部・教授
研究者番号：20187371
田辺 明生 (TANABE AKIO)
京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究
科・教授
研究者番号：30262215
石井 一也 (ISHII KAZUYA)
香川大学・法学部・教授
研究者番号：70294741
油井 大三郎 (YUI DAIZABURO)
東京女子大学・現代教養学部・教授
研究者番号：50062021
酒井 啓子 (SAKAI KEIKO)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究
院・教授
研究者番号：40401442
清水 耕介 (SHIMIZU KOSUKE)
龍谷大学・国際文化学部・教授
研究者番号：70310703

(3)連携研究者

井坂 理穂 (ISAKA RIHO)
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号：70272490